

## 文学教材を授業で活かす試み

### —1980年代以降の英語教育が置かれている状況を背景に—

東京大学大学院博士課程

高橋 和子

（以下は、学会発表時にパワー・ポイントで用いたスライドの内容と参考文献です。図表等は省略いたしました）

#### はじめに

##### 発表の目的

- おもに1980年代以降の日本の英語教育を概観。この間に文学教材がどのような扱いを受けてきたかまとめること
- 今後、どのように文学を英語教育に活かしていったらよいか、教材内容を検討すること

##### 発表の流れ

1. 日本の英語教育（おもに1980年代以降）に関連する事項を概観、特色を把握
2. 文学が英語教育から徐々に姿を消した状況のまとめ
3. 文学を英語教材として活かす上で考慮すべき点の考察：一般英語（大学）を中心に
4. 短編小説を用いた事例の提案：一般英語（大学）を中心に

#### 1. 1980年代以降の日本の英語教育

##### 1.1. 英語教育を取り巻く状況を考慮する理由

- H. G. Widdowsonらの提言：「地域固有の状況（local circumstances）」を考慮した「教科としての英語(English as a subject)」
- cf. (Widdowson, 2003); (Grittner, 1990); (Canagarajah, 2006); (岡戸, 2002)
- cf. 『2008年度 中学校学習指導要領』 「外国語」 英訳版（仮訳）  
「生徒や地域の実態（the circumstances of students and the local community）に応じて・・・目標の実現を図るようにすること」

##### 1.2. 英語教育界を取り巻く状況の変化

- 1980年代以降のおもな出来事（抜粋）
  - ・1977年度版 中学校学習指導要領：外国語の授業時数年105（週3）時間
  - ・1978年度版 高等学校学習指導要領：高校で文法の検定教科書がなくなる
  - ・1979年：国公立大学共通1次試験（第1回）実施
  - ・1989年度版 中学・高等学校学習指導要領：外国語学習の目標で、初めて「コミュニケーション」という言葉を使用。高校で「オーラルコミュニケーションA・B・C」を新設
  - ・1990年：大学入試センター試験（第1回）実施
  - ・1991年：大学設置基準の大綱化
  - ・1998年度版 中学・1999年度版 高等学校学習指導要領：外国語教育の目標は「実践的コミュニケーション能力を養う」こと
  - ・2000年：大学のカリキュラム改訂，全国の2/3の学部 に及ぶ。  
聞く・話すなど技能別授業が増加。「非効率な英語教育の授業時間」が減る（田辺, 2004）
  - ・2002年：公立学校完全週5日制。文部科学省、「学びのすすめ」発表

- ・2003年：『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」
- ・2006年：大学入試センター試験（英語）にリスニング試験導入
- ・2008年度版中学・2009年度版 高等学校学習指導要領：外国語教育の目標は「コミュニケーション能力を養う」こと
- ・2009年：『英語青年』休刊，Web版へ移行

## 2. 英語教育から徐々に姿を消した文学教材

### 2.1. 学習指導要領と文学教材

- ・1951年度版 中学・高等学校学習指導要領（試案）：「『文学気取りの』文学もの」に過度な重点を置き，一般知識を英語で読ませる教材を十分導入してこなかったと指摘
- ・1956年度版 高等学校学習指導要領：「題材内容に変化をもたせるとともに，特に文学的のものや，[sic] 特定の考え方，グループ，著者，著作物などに片寄らないようにする」と指摘
- ・1978年度版 高等学校学習指導要領：伝記，小説，詩，随筆などの題材規定を消去，「説明文，対話文，物語形式，劇形式など」へ
- ・1998年度版 中学校学習指導要領：文学教材には「物語や説明文などのあらすじや大切な部分を読み取ること」と言及する程度

### 2.2. 教科書に見る文学教材

- 中学：1990年代半ば頃から大多数の教科書が大判・カラー化。文学教材減少，平易な会話中心へ  
cf. *Total English*：「実践的コミュニケーション能力の基礎を育成する＜擬似コミュニケーション活動＞を Lesson ごとに用意」（学校図書ホームページ参照）
- 高校：1990年代半ば頃から読解教材に日常的な題材増加
- 大学：1990年頃から，文学作品を扱うテキスト減少
  - ・1992年，イギリス小説を扱う大学テキスト，600件の壁割る。1998年には429件へ。（アメリカ小説を扱うテキストも同傾向）
  - ・1998年，文学を扱う大学テキストの新刊，全新刊数の3.4%へ。会話・リスニング・時事英語などが主流に（江利川，1998）

### 2.3. 文学教材離れを引き起こした直接・間接的影響

- コミュニケーション能力育成中心の教育体制  
→文学教材は＜実践的＞ではないと見なし，より＜実践的＞な題材を扱う傾向  
cf.（藤掛，1982）；（江利川，2004）
- ゆとり教育  
→授業時数の減少，新語数の減少  
cf. 中・高で6800語程度（1951年度）から，2700語程度（1998年度）へ
- その他：IT世代，活字離れなど

### 2.4. 国語教育からも減少傾向の物語教材

- 1980年代以降のおもな出来事（抜粋）
  - ・1980年代半ば～：表現力に焦点を当てた教育が注目を浴び始める
  - ・1998年：教育課程審議会答申。文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改める必要性指摘
  - ・2003年（04年公表）：学習到達度調査（PISA）。子どもたちの読解力低下を指摘

- ・2004年：文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」。  
国語力を2領域に模式化
  - i) 言語を中心とした情報を処理・操作する領域
  - ii) 国語の知識や、教養・価値観・感性等の領域
- ・2005年：文部科学省「読解力向上プログラム」, 「読解力向上に関する指導資料—PISA 調査(読解力)の結果分析と改善の方向」のとりまとめ



- 近年の国語教育：PISA型読解力育成を目指す改革が進む。  
文学的文章などの連続型テキストだけでなく、図、グラフなどを含む非連続型テキストも教材化する必要性が指摘される

## 2.5. 擬似コミュニケーション場面＝実践的？

- 簡単な会話教材に執着する危険性  
Cf. (斎藤, 2003); (山田, 2005)

## 2.6. 現状分析 (これまでのまとめ)

- <コミュニケーション>が英語教育の主要目的になった頃を境に、文学教材は減少化傾向をたどり、実際のコミュニケーションで役立つと見なされた題材が教材化
- 教科書で多く扱われている<擬似コミュニケーション>の場면을、EFL環境で学ぶ日本人学習者が実際経験するか否か予測しがたい

## 3. 文学を英語教材として活かす試み：一般英語(大学)を中心に

### 3.1. めざしたい授業

⇒コミュニケーション＝英会話と短絡的に考えない

- 学習者を取り巻く状況を配慮しながら、基礎的な学習から発展的な学習をしていくための土台作りを行なう授業。自律した学習者の素地を養う授業
- 具体例：辞書を最大限活用する、基礎的文法事項の確認および反復練習を行なう、グループ／ペア活動を取り入れた発展的な学習を行なう、自宅学習を行ないやすい仕掛けを作るなど

### 3.2. めざしたい授業を文学教材で実践

- 教師の見識・手法次第：教材選定・指導方法を工夫すれば、コミュニケーション能力育成を目指して行なう活動(タスクなど)は文学教材を用いてこそ生きる

cf. タスク活動の条件(大下, 1996) ; (高島, 2000) ; (Branden, 2006)

- 文学教材を用いる意義を示すおもなキーワード
    - ・“language use”, “language usage” (Widdowson, 1978, 1984)
    - ・“literariness” (Carter & Nash, 1990)
    - ・“efferent reading”, “aesthetic reading” (Rosenblatt, 1978)
    - ・『分析』的な解釈と『解釈』的な解釈 (渋谷, 2003)
- cf. (高橋, 2009)

### 3.3. 従来の文学教材と、これからの文学教材

- 従来の文学教材の代表例：文学作品の原文＋巻末の注

- 文章の内容を丁寧に理解・解釈する上で有益
- △学ぶべき語彙や文法などを事前に把握しにくい
- △文字中心で、音声面の学習が行ないにくい
- △時間制約上、中途半端な箇所まで授業が終了しがち
- △教師から学習者へ一方向的な授業展開になりがち

#### ●これからの文学教材

- ・学ぶべき語彙や文法事項が明示されている
  - ・音声面の教育も導入可能
  - ・限られた授業時間内で、臨機応変対応可能
  - ・状況に応じて、ペア／グループワークへ発展可能
  - ・効率的に予習・復習を行なうことが可能
- 問題点：著作権、文学教材と他教材のバランス

### 4. 短編小説を用いた事例：一般英語（大学）を中心に はじめに

#### ●授業の設定

- ・大学1年生、『一般英語』（1コマ1時間30分、基礎レベルのクラス）
- ・受講者数：30名程度
- ・使用教材：テキスト、プリント、パワー・ポイント、音声教材（CDやDVD）

#### ●授業の流れ

1. 導入：“garden party”の意味を考えた上で、英英辞典で語彙の意味を調べる
2. 短編小説(抜粋)の読解：Katherine Mansfield, “The Garden Party”冒頭部
3. 文法事項の確認：接続詞
4. グループ／ペア・ワークの実施
5. まとめ

#### 4.1. 導入

- “garden party”の意味を色々な英英辞典で調べる

#### 4.2. 短編小説（抜粋）の読解（発表時配布資料参照）

#### 4.3. 文法事項の確認：接続詞（発表時配布資料参照）

#### 4.4. グループ／ペア・ワークの実施例

- ・ディスカッション：「本日の読み物」の課題（さし絵を利用して本文の続きを考えるなど）
- ・音声教材の聞き取り、本文の音読
- ・ディクテーション、レシテーション（暗誦）
- ・本日の読み物と別の教材を比較

#### まとめ

1. 日本の英語教育（おもに1980年代以降）に関連する事項を概観、特色を把握
2. 文学が英語教育から徐々に姿を消した状況のまとめ
3. 文学を英語教材として活かす上で考慮すべき点の考察：一般英語（大学）を中心に
4. 短編小説を用いた事例の提案：一般英語（大学）を中心に

## おわりに

- 世田谷区，教科「日本語」の教科書から，英語の文学教材へのヒント
  - ・小・中学校別教科書を，教育委員会が独自に編纂
  - ・総合的な学習の時間で実施
  - ・中学校：三分冊（『哲学』・『日本文化』：各自の考えを深めることを目指す，『表現』：考えを表現するための，効率的な技術習得を目指す）
- 従来の文学教材：表現したい内容と，考えを表現するための効率的な手段を，明確に区別しながら教育・学習することが困難
- これからの文学教材：表現したい内容と，表現するための手段を区別・意識しながら教育や学習を行なうこと。そのためのわかりやすい仕組みを作ること

## 参考文献

- Branden, Kris Van den. (2006). Introduction: Task-Based Language Teaching in a Nutshell. In Branden, ed. *Task-Based Education: From Theory to Practice*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Canagarajah, A.S. (2006). Tesol at Forty: What are the Issues? *Tesol Quarterly* 40: 9-34.
- Carter, Ronald and Walter Nash. (1990). *Seeing through Language: A Guide to Styles of English Writing*. The Language Library Ser. Oxford: Basil Blackwell.
- Chambers, Ellie and Marshall Gregory. (2006). *Teaching & Learning English Literature*. London: Sage.
- Duff, Alan, and Alan Maley. (1990). *Literature*. Resource Books for Teachers Ser. Oxford: Oxford University Press.
- 江利川春雄. (1998). 「教科書にみる文学作品の変遷史」. 『英語教育』 47 (2): 8-10.
- 江利川春雄. (2002). 「英語教科書の 50 年」. 『英語教育 Fifty』 51 (3): 27-36.
- 江利川春雄. (2004). 「英語教科書から消えた文学」. 『英語教育』 53 (8): 15-18.
- 江利川春雄. (2008). 『日本人は英語をどう学んできたか—英語教育の社会文化史—』. 東京: 研究社.
- 藤掛庄市. (1982). 「英語の学習環境の条件—環境汚染源を絶て—」. 『英語教育』 31(8): 12-14.
- Grittner, F.M. (1990). *Bandwagons Revisited: A Perspective on Movements in Foreign Language Education*. New Perspectives and New Directions in Foreign Language Education. Lincolnwood, Illinois: National Textbook Company.
- 伊村元道. (2003). 『日本の英語教育 200 年』. 英語教育 21 世紀叢書. 東京: 大修館書店.
- Mansfield, Katherine. (1951). The Garden Party. *The Garden Party and Other Stories*. 1922. Harmondsworth: Penguin.
- Mansfield, Katherine. (1991). The Garden Party. *The Doll's House and Other Stories*. Retold by Ann Ward. Harmondsworth: Penguin
- 本橋光一郎 監修・小川昌宏・下田俊夫. (2006). 『ガイドブック教育現場の著作権』. 東京: 法学書院.
- 村田久美子・原田哲男 編著. (2008). 『コミュニケーション能力育成再考—ヘンリー・ウィドウソンと日本の応用言語学・言語教育—』. 東京: ひつじ書房.
- 岡戸浩子. (2002). 『「グローバル化」時代の言語教育政策—「多様化」の試みとこれらからの

- 日本一』. 東京：くろしお出版.
- 大下邦幸編著. (1996). 『コミュニケーション能力を高める英語授業—理論と実践—』. 東京:東京書籍.
- Rosenblatt, Louise M. (1978). *The Reader, the Text, the Poem: The Transactional Theory of the Literary Work*. Carbondale, IL: Southern Illinois University Press.
- 斎藤兆史. (2003). 「“ハンバーガー英語に未来なし” 『英語が使える日本人』幻想から醒めよ」. 『諸君！』 35 (12): 66-71.
- 斎藤兆史. (2007). 『日本人と英語—もうひとつの英語百年史—』. 東京：研究社.
- 世田谷区教育委員会. (2007). 『教科日本語 表現』. 東京：大修館書店.
- 世田谷区教育委員会. (2007). 『教科日本語 哲学』. 東京：大修館書店.
- 世田谷区教育委員会. (2008). 『教科日本語 日本文化』. 東京：大修館書店.
- 渋谷孝. (2003). 『文学教材の新しい教え方』. 21世紀型授業づくり 68. 東京: 明治図書.
- 渋谷孝. (2008). 『国語科教育はなぜ言葉の教育になり切れなかったのか』 .21世紀型授業づくり 245. 東京：明治図書.
- 清水康敬 監修・中村司・西田光昭・清水俊一 編著. (2006). 『必携!教師のための学校著作権マニュアル』. 東京：教育出版.
- 高木展郎. (2006). 「『読解力』をどう捉えるか」. 『日本語学』 25: 6-13.
- 高橋和子. (2009). 「文学と言語教育—英語教育の事例を中心に—」. 斎藤兆史 編著. 『言語と文学』. シリーズ朝倉『言語の可能性』 第10巻： 148-171.
- 高島英幸 編著. (2000). 『実践的コミュニケーション能力のための英語のタスク活動と文法指導』. 東京:大修館書店.
- 田辺洋二. (2004). 「大学の英語教育—この20年に何が起こったか—」. 『英語青年』 150 (9): 526-527.
- 田中博之. (2006). 「論文解説」. 『教職研修』 35 (1): 173-174.
- White, Joanna. (1998). Getting the Learners' Attention: A Typographical Input Enhancement Study. In Catherine Doughty and Jessica Williams, eds. *Focus on Form in Classroom Second Language Acquisition*. Cambridge: Cambridge University Press: 85-113.
- Widdowson, H.G. (1978) *Teaching Language as Communication*. Oxford: Oxford University Press.
- Widdowson, H.G. (1984). *Explorations in Applied Linguistics 2*. Oxford: Oxford University Press.
- Widdowson, H.G. (2003). *Defining Issues in English Language Teaching*. Oxford: Oxford University Press.
- Widdowson, H.G. (2004). A Perspective on Recent Trends. In A.P.R. Howatt. *A History of English Language Teaching*. 1984. second ed. Oxford: Oxford University Press: 353-372.
- 山田雄一郎. (2005). 『日本の英語教育』. 岩波新書 943. 東京：岩波書店.

その他, 各年度の中学校・高等学校学習指導要領, 文部科学省ホームページ(各種審議会答申), 各年度の『英語年鑑』, 『国語年鑑』, 『大学一覽』も参照